

モニタリングシート（院・生活造形学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	点検・評価課題に対する向上・改善施策	昨年度、大学院生の履修に関連する満足度として、自分のためになったという肯定的意見に対して内容が期待していたとおりはなかったとする意見が強く、この原因確認の必要性が求められる。	生活造形学専攻としての課題は、特になし。	特になし
2	定員充足の状況はどのような状況か。	定員充足率データ	家政学研究科生活造形学専攻の2023年度における入学者定員充足率は66%であり、欠員が生じている状態である。大学院改革に早急に取り組み、定員充足のための施策を進める必要がある。	2023年度における定員充足率は66%であり、欠員が生じている状態である。	学部での学修研究意欲を高める施策を進める必要がある。
3	DP・CPと関連したカリキュラムが適切に設計されているか。	履修要項等の各種データ	DP, CPに基づいたカリキュラム編成となっており、2019～22年度にかけては、51-57科目とやや多めに推移している。家政学の視点から造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の3研究領域における講義科目、演習や課題研究などのコースワークとリサーチワークが適切に配置され、研究指導と論文作成指導を行っている。各自の専門領域のみでなく、生活造形学に関する広い視野を持つことが必要である。現在は、これを目的として、三領域から特別に招聘した著名人を非常勤講師による「生活造形学特別講義 A 及び B」をオムニバス形式で設置し、隔年開講を行っている。	特になし	大学院改革に向けて研究科内で意見交換や可能性の検討を進める。
4	DPに沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されているか。	・履修状況等の各種データ ・大学院アンケート	DPに基づいて、生活造形に関わる広い知識を習得し、かつ、造形意匠、アパレル造形、空間造形のうちの1つの領域において活躍・貢献できる高度な専門的知識、これらを活用・応用する専門的能力を修得し、専門応用能力を統合的に活用することができており、DPに沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されている。	特になし	大学院改革に向けて研究科内で意見交換や可能性の検討を進める。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	学修成果の到達度の把握はどのようになっているか。	学修成果の把握の取り組み等 大学院アンケート	令和4年度大学院アンケートからは、研究科のみでまとめることはできないが、設問1) 授業内容は期待していた通りであった、設問2) 全体としての授業レベルはあなたにとって適切であったにおいては概ね高い評価を得ている。	特になし	大学院改革に向けて研究科内で意見交換や可能性の検討を進める。
6	各科目の成績および論文・研究が適切に評価されているか。	・成績評価に関する取り組み等 ・大学院アンケート	令和4年度大学院アンケートから研究科のみでまとめることはできないが、3) あなたが受けた授業の成績評価は適正と感じていますかについては、概ね適正であったとの結果を得ている。また、生活造形学専攻では、専門科目における受講生が1-4名と少ないためシラバスの基づいた評価を絶対評価で適切に行い、質疑応答、フィードバックも適切に実施し、学会発表などで外部評価も適切に評価されている。	特になし	特になし
7	職位構成・年齢構成のバランス、非常勤比率に留意し、かつカリキュラムに基づく教員組織となっているか。	・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率	職位編成は、2023年度教授11名(教授(契約)5名)、准教授3名、講師1名、助教1名で男女比は50/50、年齢構成は大学院有資格者の関係で教授(契約)が多く、やや高齢層に偏っている。また、大学院博士前期課程指導教員10名、授業担当教員2名、博士後期課程指導教員6名、指導補助教員1名となっており、カリキュラムあるいは研究指導上、適切な教員配置となっている。非常勤講師は、大学院生に広い視野を持たせるための授業「生活造形学特別講義AおよびB」のみに置き、その比率は3.5%である。その他の主要な科目など全てを専任教員が担当している。	年齢構成は大学院有資格者の関係で教授(契約)が多く、やや高齢層に偏っている。	専攻内で適切な大学院指導資格審査を行い、年齢層を是正する必要がある。教員卒の考え方の整理が必要であるが、新規採用教員卒については助教、講師、准教授も含めた若年層に広げる必要がある。
8	課題認識および外部環境を踏まえた独自のFD活動を実施できているか。	・FD取り組み状況 ・前年度点検シート ・点検・評価課題に対する向上・改善施策	造形意匠(デザイン)学、アパレル造形学、空間造形学の3研究領域から構成されるため、異なる研究領域間での研究指導方法を学ぶ機会を設けている。博士前期課程における専攻内修士論文の中間発表(あるいは事前発表)・最終発表、博士後期課程における博士論文の中間発表(あるいは事前発表)・公聴会に、専攻あるいは研究科の全教員が出席し、意見交換を行い教育・研究内容の質的向上・改善が行われている。	各自の研究指導方法を見直し、教育の質的向上・改善に資することを目的に、異分野の研究発表を聴く機会を複数回設けている。	特になし

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
9	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力。	・各種データ	特になし	特になし	特になし